

しおさい



鹿橋の能舞「かねまき」

CONTENTS

- 特集記事 シリーズ® ふるさと見聞録 かみたしろ 上田代を訪ねて2
- 明日へのかけはし:岩屋漁業協同組合婦人部4
- クローズアップ こんにちは元気さん さかもと たかゆき 坂本 貴幸さん4
- ファイト!わんぱく:東通小学校野球部5
- 地元の特派員レポート つかした せ な なかもら 塚下 聖那さん/中村 司さん6

vol.19
平成30年度発行

村内唯一、お正月の「じえんこまぎ」を伝承

かみたしる

上田代を訪ねて

神仏や奇習を大切に守る、仲睦まじい地域!

国道338号線を白糠方面に向かい、砂子又を約2km過ぎた「田代分かれ」から山道に入って東へ約1.5km。大川の緩い谷川斜面にある集落が上田代地区です。昔は砂子又の枝村でしたが、昭和4年に独立しました。

かつての主な産業は、農業、山樵(木こり)、炭焼。大正時代前半までは畑作が中心で、のちに水田耕作も行われるようになりました。ほかに、杉の植林、畜産(短角牛)、農耕馬も育て、昭和20年頃まで代かきは馬を使っていたそうです。また、その頃は、山椒の皮をスズと混ぜて川に流し、ウナギをしびれさせて捕獲するのが楽しみだったと言います。鉄の製造も行われていたようで、当時の鉄くずが今も畑からたくさん見つかっています。

集落の活動は、地区会が御神楽、春秋の例大祭、お正月の祈祷、年に一度の親睦旅行を開催。年越前は、何軒かで組んで一斉に蕎麦を打ち、木の板に並べ親戚に配る習わしが今も続いています。

40年前までは青年団があり、防砂林として松を植樹する作業で日当を稼ぎ活動資金を得ていました。かつての処女会は裁縫や行儀作法を習い、のちに婦人会となり10年前までは田植踊りも行っていました。老婆会は、今でも

毎月24日に集まり、念仏を唱えたり、「まめふだ」というカードゲームを楽しんでいます。

また、この地区には「おぼすなさま」(産土様)と呼ばれ親しまれている上田代神社があり、元々ある八幡様のほか、御稻荷様、観音様、ごしてん様、くろは様、山の神様など、いろいろな神仏が一堂に集めら

れているのが特徴です。神社奥の院の前に吊るされてあるのは、鈴ではなく、お寺の鐘というのも珍しい風景です。神楽は100年以上前から行われています。昭和20年頃までは「シバヤ」と呼ばれる歌舞伎が行われ、今も当時使用したカツラが残されています。獅子頭は2つありましたが、一体は「一里小屋地区」に進呈したと伝えられています。

そして、村内で唯一、上田代地区だけに残されている風習が「じえんこまぎ」です。この地域は昔から名馬の産地で、牛馬の守護神を「蒼前様」として奉ってきました。年に一度のお正月、地区会長の家をスタート地点に、各家々の前では家畜が安全に育つことを願い「蒼前様」で清めたお金がまかれます。以前は飴やお菓子もまかれたそうですが、今は5円、10円、100円、500円がまかれています。これからも、ずっと後世に残し続けたい貴重な伝統行事です。



地区の「おぼすなさま」として親しまれている上田代神社



神社奥の院。正面には鈴ではなく、お寺の鐘が吊るされています



上田代神社の境内に祀られている御稻荷様



上田代神社の裏側に祀られた神仏



お正月恒例の「じえんこまぎ」



神社から眺めた上田代地区

目や切り傷に効く湧水・湯沢の薬師様

上田代の集落から約1.5km山道を歩くと、広葉樹が茂る中、大きな杉と薬師堂が目を引く、湯沢の薬師様があります。

大木の根元から流れている湧水は、長方形の水槽に、今も静かに水をたたえています。かつて水はぬるかったそうですが、現在はとても冷たいというから不思議。薬師様の水は、古くからとてもありがたいものと言われ、目や切り傷に効くと伝えられているそうです。

昔は、5月8日の「薬師様」のお祭りに、供物を捧げ、盆踊りや田植歌を歌い、多くの人で賑わいました。

今は、上田代の地区会が年2回掃除を行い、大切に守っています。

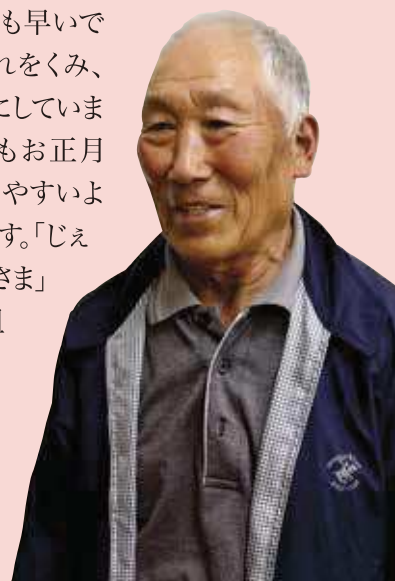


湧水・湯沢の薬師様



上田代地区 会長 よしだ 吉田 せんぞう 専蔵さん(78歳)

上田代地区は、世帯数13戸、人口26人の集落です。砂子又からの分家がほとんどで、名字は吉田、越善、竹林の3つ。少人数なので、祭りや行事など地区の仕事は全戸参加で大変ですが、その分、まとまりがあり、何を決めるのも早いです。神仏混交の流れをくみ、神様も仏様も大切にしています。我が家では今もお正月に、仏様が戻ってきやすいようにと松明を並べます。「じえんこまぎ」「おぼすなぎま」「薬師様」など、先祖が残した大切な遺産を、その想いと共に、ずっと伝えていきたいと願っています。



地元上田代をはじめ、下田代、猿ヶ森の民生委員を務めています。上田代では私が一番若いので、高齢者の様子や、ひとり暮らしの人の暮らしを気遣っています。神楽の太鼓もたたっているのので、先輩方を見習い、さまざまな伝統を守り伝えていかなければと思います。



上田代地区 民生委員
えちぜん いわお
越善 岩男さん(63歳)

これまで大工として働いてきたので、昨年はボランティアで神社の鳥居を、ヒバ材を用いて新設しました。御稻荷様の小屋も建てたので、来年は墓の地蔵小屋を作りたいと考えています。小さい地域なので、誰かが奉仕しなければという心意気で取り組んでいます。



上田代地区 副会長
よしだ まさひろ
吉田 正廣さん(69歳)



東通村の頑張るグループを紹介

下北ジオパーク認定商品を販売! [岩屋漁業協同組合婦人部]

地場の食材、文化、自然を生かした「下北ジオパーク認定商品」。今年度新たに認定された「岩屋名産炭火焼のしいか」を製造販売しているのが、岩屋漁業協同組合婦人部です。メンバーは、30代から70代の6人。笑顔いっぱいの中良しグループです。

結成は今から30年程前。岩屋漁協組合員の奥さんが、ご主人が漁で獲った規格外の魚介に付加価値をつけて販売できないかと考え「さけとば」と「のしいか」の加工品を作ったのが最

初でした。

ジオパーク認定商品への応募のきっかけは、昨年、ジオパーク認定番号1として村内の酒店で販売されている、ジュラ紀湧水仕込み特別純米酒「祈水」。自分たちが丹精込めて作った「のしいか」は、この酒のお供にぴったり!とコンセプトを決め、通年販売を実現しました。

作り方は、新鮮なイカを、ジュラ紀(1億5000万年前)の地層を流れる湧水で洗い、さばいて潮風のもと天日干し。炭火で焼いたあと、製造機でのし、

手作りのパッケージに詰めて完成。岩屋地区では古くからイカ漁が行われ、家族ぐるみで加工するのが冬の風物詩だったそう



和気あいあいと「のしいか」を作る漁協婦人部



下北ジオパーク認定商品「岩屋名産炭火焼のしいか」



岩屋漁業協同組合婦人部のみなさん

です。寒干した無添加のイカは、炭火で焼くことでイカの旨味を更に引き出し、ほのかな磯の香りが漂います。

婦人部長の三国加奈子さんは「みなさんのご協力のもと、ジオパーク認定商品となったことで、県内外への販路拡大に期待を寄せています。今後は、10年前から手作りしている『のしたこ』の認定に向け、部会員が力を合わせるとともに、若い部員のアイデアで新商品の開発にも挑戦したい」と話していました。



村内で元気に活動する人を紹介!



総合学習塾「てらこ屋」

さか もと たか ゆき

坂本 貴幸さん(44歳)

地域の活性化を目指し、東通村が昨年度から始めた廃校舎等の利活用事業。今年、村から旧老部児童館を借り受け、総合学習塾「てらこ屋」を開いた坂本貴幸さんに、お話を伺いました。

東通村老部生まれの坂本さんは、地元の小中学校、田名部高校、東北学院大学へ進学。卒業後は仙台市内に勤めていましたが、両親の体調を気遣い10年前にUターン。現在はむつ市の塾に勤めながら、今年、念願の「てらこ屋」をオープンさせました。塾の先生になろうと考えたのは自分が社会人になって知り合った人々の知識の高

さに驚き、「東通村の子どもたちに、受験のための勉強だけじゃない、将来に向けて幅広い知識と教養を身につけて欲しいと思ったから」と明かします。「てらこ屋」オープンまでの苦労を「築50年、閉館から6年経った児童館は2ヶ月間、掃除ばかりの毎日でした」と笑いますが、懐かしいレトロな建物に、子どもたちの元気な声が響きます。

「てらこ屋」の指導方法はとってもユニーク。坂本先生手作りの百マス計算から始まり、魚への漢字、都道府県名、体の部位を英語で答えるものなど、楽しみながら学べるしくみ。もちろん受験コースもありますが、親子で学べる教室も用意されています。「本来、学びは楽しいもの。それを子どもたちに伝えたいんです。ここで学んだことが偶然テレビのクイズ番組に出て『先生、全部答えられたよ〜』と喜んで話してくれた時は嬉しかったですね」。



今、坂本さんが挑んでいるのが、県の事業「地域のお宝物語」。村に住む田名部高校の生徒11名と取り組んでいるもので、村の良さを見つめ直し、再発見した魅力を発信できる人材の育成を目指します。活動を通じ「自分たちで考え、行動する力を養ってほしい」と語ります。

「将来は『てらこ屋』を村内に5カ所開設し、現在学んでいる高校生も指導者となって働く場を提供するのが目標です。知る喜びが体験できる『てらこ屋』に、ぜひ一度遊びに来て下さい」と呼びかけていました。



旧老部児童館にオープンした総合学習塾「てらこ屋」



坂本先生から指導を受ける子どもたち



東通村「地域のお宝物語」高校生たちによる研修の様子



東通小学校野球部

今年春に行われた「下北地域少年軟式野球大会」で、念願の初優勝を果たした、東通小学校野球部。部員は、6年生13人、5年生6人、4年生11人の合わせて30人で、部長の南川天祇君はじめ、みんな野球が大好き。守りのチームで、少ないチャンスを得点につなげます。

夏は野球場、冬は屋内練習場で、水曜日以外毎日1時間から1時間半、熱心に練習。指導しているのは、広田陽介監督、仁木一先生のほか、橋本健一さん、大関侑也さんなど地元のおじいちゃんやお父さんたちです。練習は、ランニング、準備体操、ダッシュ、



野球部のみなさん

キャッチボールのあと、短い時間でも成果が上がるよう、実践を想定したメニューをこなします。

野球部の特徴は、何と言ってもチームワークの良さ。6年生を中心に練習に励み、下の学年がわからないことはしっかり教え、4、5年生は常に6年生を目標に頑張っています。試合では、お母さんたちもベンチに入り、タオルの準備をするなど、子どもたちを温かく見守っています。

部長の南川君は「野球は礼儀を大切にするチームプレーです。試合で勝った時は嬉しいし、達成感もある。今年は、念願だった下北大会での優勝、県大会での一勝も

経験できて、ほんとうに良かった。11月の下北地区で行われる最後の試合では優勝を目指します」と笑顔。

仁木先生は「今年の地区大会優勝、県大会での勝利は、昨年度全国大会出場の経験や、冬場の体力作りの成果が出たものと考えている。野球を通じてスポーツで大切なあいさつや、仲間を大切にすることを忘れない人に育てて欲しい。そして野球は楽しい、おもしろいという気持ちを、ずっと持ち続けてもらいたい」と話していました。



準備体操



ストレッチでウォーミングアップ!



スタートダッシュの練習



ナイスキャッチ!



キャッチボール



バッティング練習でフォームもばっちり!



守備練習



ミーティング



部長
みなみかわあまぎ
南川 天祇くん
(6年)



東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

レポートは10月に作成し
写真は特派員が
自ら撮影したものです。



大好きな白糠

東通村白糠在住 つかした せな
東通小学校(6年) 塚下 聖那さん(12歳)

東通村の一番南にある白糠地区は、漁業が盛んな集落です。海に近い白糠だからこそ食べられる季節ごとの新鮮な海の幸がたくさんあります。市場にはその日に水揚げされた魚やイカなどが並びます。そんな新鮮な魚を食べられるこの地区が私は大好きです。また、海や山に囲まれ自然豊かな白糠には、すばらしい場所があります。それは、東通村と六ヶ所村の境にある物見崎灯台です。灯台から南側を見渡せば岩に押し寄せる美しい波の景色、北側には白糠港や集落を望む景色が広がり、どちらも感動します。白糠港か



漁をする漁船

ら見上げる灯台もきれいです。

また、赤岩神社もすばらしい場所の一つです。毎年7月には、神社の例大祭で夏祭りがあります。子供から大人まで楽しめる行事です。

私は、たくさんの自然に囲まれ、景色の美しいこの白糠で育ち幸せに思います。

みなさんもぜひ白糠に遊びに来てください。



赤岩神社から眺める白糠の集落



水揚げされるいろんな魚



海から見た物見崎灯台



赤岩神社



獅子舞伝承の地「入口」

なかむら つかさ
東通村入口在住 中村 司さん(53歳)

津軽海峡に面した入口地区は、海と山に囲まれた自然豊かな集落です。人口の約6割が漁師という、漁業中心の地区で年間を通していろいろな魚介類が水揚げされます。中でも、津軽海峡の荒波によって育てられた外海地まきほたて貝やホヤは全国的にも有名になってきています。

入口には長窪稲荷神社があり、樹齢四百年を越えるケヤキの巨木が御神木として祀られています。毎年、4月10日と10月10日に例大祭が行われ、入口青年会の権現舞による御祈禱が行われます。また、秋の例大祭では、山車の



いろいろな魚介類が水揚げされる野牛漁港



長窪稲荷神社



御神木「ケヤキ」

運行もあり、大変賑わいます。伝統芸能では、入口青年会が岩手県北から伝わったとされる、山伏神楽(三拍子)を伝承し、「東通の獅子舞」として確立させ、今も伝承されています。正月元旦から集落の毎戸を門打ち祈禱します。1月4日には幕納めを集会施設「入口かしわの館」で開催し、地区の人々は元より、他の地区や正月に帰省した親戚の方々に獅子舞を披露します。鳥舞から始まり、最後の権現舞による御祈禱まで、若者たちが優雅に、そして荒々しく夜遅くまで舞を披露します。そんな若い人たちの活躍により、数年前に途絶えてしまった入口青年団が開催する演芸会を復活させようという話も出てきています。演芸会が大好きな私にとっては、ぜひとも復活させて



入口から臨む津軽海峡

欲しいと願っています。

豊かな自然に囲まれた入口地区は、子どもからお年寄りまでとても元気な地区です。ぜひ遊びに来てみてください。



幕納めの会場「入口かしわの館」

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

編集後記

広報誌『しおさい』第19号はいかがでしたでしょうか。

今回も村内で精力的に活動する幅広い年代の皆さんをご紹介しました。新たな物事に果敢にチャレンジする姿に、私自身も鼓舞されています。

さて、本誌『しおさい』は、次号が節目の20号となります。平成18年5月の創刊からこれまで発行を継続できましたのも、皆さまからの温かい励ましと貴重なご意見の賜物と感謝しております。

これからも皆さまに親しまれる広報誌を目指してまいります。引き続きのご愛読をよろしくお願いいたします。